



森のなごま

2009年10月号

NO. 18 (継続163)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

今...外来生物を考える。

生態系は、長い期間をかけて食う・食われるといったことを繰り返し、微妙なバランスの元で成立していることから、外来生物が侵入してくると、生態系のみならず、人間や農林水産業まで幅広く悪影響を及ぼす場合があります。我国では2005年に外来生物法が施行され、各地で外来生物問題に対する取り組みが活発に行われるようになりました。外来生物による被害を予防するために日本に「入れない」 野外に「捨てない」 他地域に「拡げない」ことが大切であり、駆除活動と同時に一般の方を対象とした普及啓発活動も充実させていく必要があります。

特別寄稿

セイヨウオオマルハナバチの脅威

北海道・野付半島ネイチャーガイド・大野木 智子さん

野付半島は北海道の東端、知床半島と根室半島の間位置し、全長約26kmの日本最大の砂嘴です。この細い半島はさまざまなお花が咲き乱れる原生花園、鬱蒼と生い茂る森、トドマツの枯れ木が転がる奇景トドワラ、そして穏やかな野付湾と雄大なオホーツク海という多様な環境が混在し、それぞれに適した動植物が生息しているところ。この絶妙なバランスで保たれている野付半島の生態系に近年、外来種のハチ、セイヨウオオマルハナバチが急増、在来種のノサップマルハナバチが脅威にさらされています。

セイヨウオオマルハナバチとは

セイヨウオオマルハナバチ(以下、セイヨウ)は鮮やかな黄色と黒の縞模様と真っ白なお尻が特徴的な大型のマルハナバチです。日本では1992年からトマトの受粉を助ける目的で輸入されています。このハチのおかげでトマトの受粉効率が飛躍的に高まり、おいしい安全なトマトを供給できるようになりました。しかし一方で外来種であるセイヨウの野生化による生態系への影響が懸念されてきました。残念ながらハウスから逃げ出したと思われるセイヨウが1996年に日高町で初確認され、以来、北海道を中心に分布が急速に拡大しているのです。

在来マルハナバチへの影響

野付半島には8種類のマルハナバチが生息しています。なかでもノサップマルハナバチは非常に限られた地域に生息する希少種です。マルハナバチは季節ごとに自分専門の花を決め、その種類の花ばかりを訪花し蜜や花粉を集めます。舌の長いマルハナバチでなければうまく蜜にありつけないような進化をしてきた、細長い花管を持った花や複雑なつくりの花にとってはマルハナバチのいる、いないは種の存亡に関わる重大問題です。しかしセイヨウは比較的舌が短いため蜜の溜まっている部分に外から穴を開け、花粉を運ぶことなく蜜だけを盗む「盗蜜」という行動をとるのです。もしセイヨウが在来マルハナバチを駆逐してしまった場合、それまで舌の長いマルハナバチに花粉を運んでもらっていた植物は繁殖できなくなる恐れがあります。またセイヨウの輸入に伴い、外国産の寄生生物と一緒に日本に持ち込まれ、在来のマルハナバチに感染する恐れもあります。

駆除の実際

野付半島では2007年にセイヨウが初捕獲され、その後の調査で野生の巣も発見され、定着が確認されました。2008年に外来生物対策プロジェクトを立ち上げ、セイヨウの捕獲を行っていましたが、今年2009年は野付半島だけでなく、周辺市町とも協力し広域的に駆除していく方針で、8月までの時点で5市町合計256頭のセイヨウを捕獲しました。セイヨウとノサップマルハナバチの体毛のカラーパターンが非常に似ているため、その見分け方や捕獲時の留意点などの勉強会も行っています。見つけては捕虫網で捕まえるという、地道な作業ですが、なんとかセイヨウの拡大を防ぎたいと思っています。



セイヨウオオマルハナバチ
お尻が白いのが特徴



ノサップマルハナバチ
お尻が黒いのが特徴

特別寄稿

富士箱根伊豆国立公園・箱根地域におけるオオハングソウ駆除活動について
環境省箱根自然環境事務所・アクティブレンジャー 大川 依里奈さん

オオハングソウは、北アメリカ原産のキク科の植物で、明治中期観賞用に導入されました。1955年には野生化が確認され、現在では全国に分布しています。箱根地域では、松浦正郎「神奈川県西部の帰化植物 - 小田原・箱根を中心に - 」(『小田原市郷土文化館研究報告 No.14』, 1978)によると、「湿原の天然記念物指定地内にはオオハングソウが増えはじめたのが4年前で3本確認した。次年度にはそれが56本に増え、さらに3年目には120本になったため、放置すれば大変なことになると全部根こそぎ抜き取った。」とあり、1970年代には野生化していたこととなります。現在の分布状況については、神奈川県自然環境保全センター箱根出張所(以下「県自然環境保全センター」)が調査を行い、2009年3月時点で85カ所が確認されています。

先の報告書の通り、オオハングソウは非常に繁殖力旺盛な外来生物です。在来種に影響するほど大群落をつくる等、生態系への深刻な被害が出ていることから2006年に外来生物法の特定外来生物に指定され、「栽培、運搬、保管、輸入、販売、野外に植える・まく」などの行為が禁止されています。また、すでに国内に定着している地域では、防除を行っているところもあります。箱根地域で駆除活動が始まったのは、2005年に県自然環境保全センター、箱根ビジターセンター、箱根自然環境事務所の職員やパークボランティアらにより、群れ咲いていたオオハングソウの駆除を行ってからで、それ以降生育場所の調査も始めました。2007年からは県自然環境保全センター・箱根町主催の、箱根ボランティア活動で6~9月にかけて月2回オオハングソウの駆除を行っており、箱根自然環境事務所も協力の立場で毎回参加しています。2006年に6カ所で約2万2千株、2007年に22カ所で約3万2千株、2008年には43カ所で約4万株駆除しました。今年も6月~9月の間駆除を行いました。オオハングソウの生育場所、生育状況、駆除については、県自然環境保全センター発行の『箱根におけるオオハングソウ確認地カルテ 2008』に記載されており、下記HPからダウンロードしてご覧になります。私が駆除に参加した当初、前年駆除した場所に、再びオオハングソウが生えてる様子に目を疑いま

した。ですが参加し続けるうちに、同じ場所を何度も駆除することによって、オオハングソウの勢いは衰えているように感じます。オオハングソウは、根に栄養を蓄え、そこから新しい芽を出すので、駆除活動ではスコップや小さな鍬状の道具を使って根こそぎ駆除しています。抜きはじめの年はショウガに似た大きな根の塊が出てきましたが、駆除を続けている場所では小さなものが多く、これまで蓄積された種子が発芽していると考えられています。勢力は弱まりつつも、まだ根絶するには到らないのが現状です。広がる前に抜き取るのが近道です。この活動が実を結ぶ日を祈りつつ、今後も駆除活動に参加していきたいと思えます。

神奈川県自然環境保全センター『箱根におけるオオハングソウ確認地カルテ 2008』

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/05/1644/publication/hangonsou/karte2008.html>

オオハングソウ駆除体験報告

8月23日奥日光湯ノ湖 小野 幸広【7期】

(財)国立公園協会が国立公園の現地管理組織からの支援要請に基づき、登録ボランティアより参加を募って実施される催しで今年度は八幡平・尾瀬に続く第3回目である。

当日は環境省日光湯元ビジターセンターに午前10時半に集合(参加者はスタッフの他20名で東武日光駅より貸切バス、私のみ自車にて直行)諸説明後、作業を開始し12時半終了した。現地はボート乗り場脇の湖岸の葦原で、身の丈を越す葦の密生地にオオハングソウが混生しており根茎ごと抜き取る必要から、スコップや手鍬を使いながらの根気の要る作業だった。抜き取った量は軽トラック1台分になり、短時間の割にはかなりの量で参加者の頑張りもさりながら、その群生密度の高さを如実に表したものである。当日は前期ビジターセンター主催の別団体によるスキー場での作業もあり人数も多く我々の倍以上の成果を挙げたようである。日光地区でも当種の繁茂は盛んで、往路の道路脇や空き地はまるで黄色い花畑で、今更ながらこの勢いの凄さに驚いた。現地関係者の話では、先ず湯元地区での根絶を図りたいとのことであった。午後はスタッフによる小田代ヶ原周辺観察会が実施されたが、帰路の渋滞を懸念して、支給の入湯券にて温泉気分を味わったのち、金精峠越えにて帰路に着く。

左 中はオオハングソウの実生
右 ガビチョウ 上 成鳥・下 ブルーの卵・中央ヒナ
<ガビチョウ・卵・成鳥・箱根PV提供>他広報部 村井



私の認識

野鳥その71

高橋 恒通

今月は少し珍しい冬鳥。スズメ目ツリスガラ科のツリスガラ（漢和名：吊巢雀、英名：penduline Tit、体長L = 11cm）についてご案内を致しましょう。

体色はよく似てますが、その最大のポイントは太い過眼線で、は黒色、は黒褐色がやや淡い点です。然も過眼線はまるでアイマスクを施した如く、正面も側面も同じ太さだと私は認識しております。

には過眼線の上に白色の眉斑がありますがにはありません。共に頭部は灰色で上背面に淡い褐色の帯があります。

は喉下から胸前、そして下面が濁白色ですが、は淡い褐色です。

従って、特には粗見すると小形のモズかナと見えますが、嘴は短く先端が鋭く尖った鉛色ですので、その点はモズと異なります。

メジロぐらいの大きさのツリスガラの生活場所は平地の葦原で、冬季に枯れた葦原の中を群れで移動し採餌します。



冬枯れの葦原の中から、パチッ、パチッと音を立て葉鞘を嘴で剥がし、中に潜むカイガラムシ、アブラムシそしてクモ類、ガマの穂など草の種子も食べると凶鑑にあります。

私が日本野鳥の会沼津支部に入会して2年目頃、多分1990年（平成2年）12月だったと思いますが、最初にツリスガラに遭った時の場面をご披露いたしましょう。

沼津市の西部に国道1号線に沿って“浮島沼”と呼ばれる広大な葦原がその当時ありました。現在、葦原は5分の1位まで激減しています。

その日は、時折り北西の風が吹き、鋭い冬の陽の差す日でした。浮島沼に来て驚いた事に、枯れた葦原の中の方々から“パチッ、パチッと乾いた音が耳に届いて来ます。

風が少し強いと葦が揺れて波打つ毎に葦の茎に止まっているツリスガラのアイマスクが双眼鏡の中にハッキリと捕えられました。

それも本当にあちらにも、こちらにもと結構な数の群の存在を確認出来たのです。

「自分もこの浮島沼で毎年冬にツリスガラを観てますが、これ程まで数多くを観たのは初めてです。今日参加された方は本当に幸運ですネ」とリーダーが話されました。

ツリスガラはユーラシア大陸の温帯で繁殖し、我国には九州、四国など西南日本に冬鳥として多く渡来する野鳥と認識しています。

私がビギナーの頃には、この野鳥を観る為に九州方面に出掛けるバーダーも居たと言う話を聞いた事がある位、関東地方では珍しい鳥でした。そして、その頃にも既に、「四国で繁殖が確認されていますし、近畿や東海地方でも冬季に葦原で観察されていますので、箱根より東でも期待大です。」と言われてました。

神奈川県下では、相模川河口の葦原で90年代に観察された記録があり、近頃では多摩川でも観察例があると聞いてます。然し私自身県下で未だにツリスガラは観てません。

ツリスガラはヤナギの木などの枝先に、巣を吊り下げて作ることが名前の由来です。

そして巣もさることながら、アイマスクを彷彿させる太い過眼線のアクセントがこの野鳥を堪らなく魅力的にさせてますので、本稿ご愛読の同志の皆様も、冬季に葦原へ行く機会がありましたら、“ツリスガラ”の存在に留意してみてください。

< 参考資料 >

日本の野鳥 山溪ハンディ図鑑7
 写真・解説/叶内拓哉
 分布図・解説協力/安部直哉
 解説(鳴声)/上田秀雄 山と溪谷社
 日本の野鳥・山溪カラー名鑑・
 編 高野伸二・解説/浜口哲一他
 山と溪谷社
 630図鑑・(財)日本鳥類保護連盟
 野鳥・山溪フィールドブックス
 写真/叶内拓哉・解説/浜口哲一
 山と溪谷社
 写真・ウイキペディアフリー
 百科事典より

森林文化部会

森のクラフト教室

開催報告

8月1日(土)～2日(日) 10時～15時 山北町中川水源地域交流施設

【活動内容】

中川水源地域交流施設は、「水源地域交流の里づくり推進事業」の一環として開設された施設であり、紙漉き体験が出来るよう、今年度中の設備導入がすすめられています。

この間山北町とは、一昨年より紙漉き体験を通じた活動交流を開始していますが、より交流を進展させるため、この場所をお借りしてクラフト教室を開くこととしました。

今回のポイントは、企画段階から山北町役場を中心に打ち合わせを進めたことで、山北町内の公共施設、民宿、食堂にはいずれもチラシが置かれるなど、今までの取り組み以上に事前のお知らせが進んだことです。

そのこともあり当日は、キャンプ場や民宿の宿泊者が、特に二日目は大雨の中、幼児を中心としたスポーツクラブや小学生の野球クラブチームなどから参加がありました。

木の実のオブジェや水鉄砲、ハイクワ万華鏡づくりのほか、丸太切りなどさまざまなアクティビティの体験をされ、参加者一同、驚きや喜びの声を上げていました。

今回も松田町寄地区より3名がお見えになり、11月の「寄体験2009」に向けた打ち合わせが行われ、取り組みの成功を確認しました。

最後に山北町役場のご担当者より、クラフト教室開催の感謝と山北高校の文化祭での紙漉き実演会の派遣要請がされるなど、新たな展開につながった取り組みとなりました。

今回の取り組みを通じ獲得したノウハウを、寄地区に、また次年度につなげていければと思います。

(記 8期 齊藤)

参加者 2日間合計で80名 **イ** 井出、米本、落合、白畑、武者、谷津、松村(俊)、齊藤(彰)、内野、小笠原、金森、中元



松田町 だより

芋焼酎で町
おこし 3

芋焼酎『百年紀をつくる会』では、いよいよ収穫が目の前にせまり、寄の美しい山々と木々の緑、まさに佳境に入ってまいりました。収穫には会員の皆様のご協力が是非とも必要であります。芋の掘り起こし、運搬、積み込み作業と大変な作業が見込まれますが、My 芋焼酎のために、皆様、ご協力をよろしくお願いいたします。なお、収穫した芋の一部は当日参加された会員の方々に少しですが、お配りしたいと考えております。会員の皆様には、初めてお会いする良い機会だと思っておりますし、顔の知らない者同士ですが、交流を深めて頂ければと存じます。なお、当日宿泊したいという方には、民宿もご案内できます。お気軽にご相談ください。お待ちしております。(1泊2食 6500円~)

収穫期日 10月17日(土)雨天決行 8時頃より
場所 松田町寄 2955番地(畑付近)
駐車場 寄自然休養林管理センター付近
電車、バスをご利用の方は、小田急線新松田駅下車、富士急湘南バス寄行きをご利用ください。(7:13 7:50 8:25 9:05)
配送作業 収穫した芋は、その場で袋詰めし、配送コンテナ(5t)へ積み込みを行います。

収穫に当たりまして大変恐縮ですが、準備の都合上ご参加頂ける方は松田町役場企画財政課までご連絡ください。

電話 0465-83-1222(平日8時半~17時15分)



- 芋焼酎『百年紀をつくる会』 まだまだ募集してます！

活動短信

8/1~9/12

県民参加の森林づくり(下草刈り)

日 8月1日(土)8時半~13時 曇り
場 南足柄市矢倉沢(風切寄付森林)
参 県民43名
財 高橋、永島、**看** 青木
イ L中元、石原、柳、高崎、永野、小野、坂齋、山崎、浦野、久保、松本、渡辺(靖)、篠原、波多野、宮向井、村井、

今日から8月。炎天下の下刈りと覚悟していたが、当日は今にも雨が降りそうな曇り空。直射日光がなかったが風も無く湿度が高く蒸し蒸しする。前回(7月11日)と同じエリアで下刈りを行った時アシナガ蜂の被害を受けている。暑さと蜂そして刃物の注意事項を肝に命じて作業を始める。植栽木のヒノキの枝に、まだ小さいがアシナガの巣がぶら下がっているのを多数確認した。急斜面の植栽地には、イノシシ君が遊んだのか土が掘り返えさせられた所が数か所見受けられ、倒れた植栽木をしっかりと植え直した。ヒノキ林の竹の伐採地にもアシナガが偵察でブンブン飛んでおりこちらにも要注意。作業の後、汗を拭き拭き下刈り跡を振り返ると汗も吹き飛び爽やかな疲れに変わっていた。

アシナガに3人、虫刺され1人出たが、看護師さんの適切な処置で大事に至らなかった。昼食後「竹について」のミニ講座あり、その後解散とする。(記 10期 中元)

水源林保全体験イベント(下草刈り)

日 8月8日(土)
場 県立21世紀の森 水辺の森付近
主催 神奈川県水道記念館
参 大人14名 子供7名(計21名)
スタッフ (水道記念館・アクティオ(株))8名
イ L高橋、吉山、鈴木(松)、金森、

本日のイベントは神奈川県水道記念館の体験イベントで、午前中に下草刈りの体験を行い、以後21の森の見学、三保ダムの見学ツアーである。時間も制限があったため、到着後はすぐに作業場所へ移動し、道具到着までの時間を利用し、森林と水について15分程度のミニ講座を行なう。本日の参加者は当初40名(内、子供15名)であったが、当日までのキャンセルが多く、参加者は21名(子供7名)であった。しかし、作業場所が水辺の森の東屋付近で、子供たちが刈れそうな場所は少なく、少数が幸いした感じである。

作業は1時間程度であったが、それぞれの技量、意欲にあったやり方で行なった。作業途中、刈り取ったアオキに蜂の巣があり、インストラクター1名を含み4名(大人)が刺されたが、全員軽症で事なきを得た。最後は自分たちが刈った場所と刈っていない場所を確認してもらおうと、作業の成果に皆笑顔であった。(記 9期 高橋)

水源の森林づくり体験

日 8月14日(金)9時~16時
場 やどりき水源林
参 財団法人 神奈川県企業庁サービス協会・45名
イ L山崎、島岡、高崎、横山、加藤、

大型バス現地到着の9時40分頃、急な雨で中止かと思われたが、段々小降りとなり雨合羽を着ての自然観察会となったが、途中から晴れ間が出てヤマビルの被害もなく無事に終了。

昼食後、一行は玄倉の丹沢湖ビジターセンターに移動し、クラフト・コースター作りと14時半まで丹沢湖周辺と酒匂川水系の海に至るまでの「リバーウォッチング」をマップを使って説明した。

(記 7期 山崎)

水源の森林づくり体験

日 8月19日(水)
場 やどりき水源林・やどりき自然休養林
参 36名(うち子供18名)
主 企業庁サービス協会 天利他6名
財 豊丸
イ L宮本、斉藤、山崎、加藤、海野、

曇天なるも雨の心配なく、この時期の自然観察会としては良い条件のもとで実施された。今回は小・中学生と保護者を対象に「水源林の保全に深い関わりを持つ森林とふれあい、その大切さを実感し水資源への関心を高めてもらう」ことがメインテーマ。Bコースで五感を使って自然観察しながら森林の働き、仕組み、現状、整備状況、林床の違い、雨水の行方、緑のダムなど、水を安定的に供給するための水源の森林づくりについての説明をした。参加者からは楽しく水源林のことが良く理解できたとの喜びの声を聞き、また企業庁サービス協会のスタッフからも良い勉強をさせてもらったと言われ、達成感と同時に身の引き締まる思いであった。

午後はやどりき自然休養林へ移動し、マスのつかみどり。子供たちはずぶ濡れになって大奮闘し、夏休みの楽しい思い出の一日となったと思う。

(記 10期 海野)

水生生物観察研修会

日 8月22日(土)9時半~14時
場 やどりき水源林・寄沢
参加 インストラクター・27名
講師 野崎隆夫氏(神奈川県環境科学センター)

ここの二年水生生物観察プログラムが小中学校教室の中で増えてきており、インストラクターの資質向上、要員養成が必要な背景がある。そこでやどりき水生・土壌生物班企画・やどりき部会の主催で水生生物観察研修会が実施された。

午前中は採取の指導で実物を見ながら解説がありもっとも楽しい時間、午後は資料を使った水生生物学入門の解説だった。

専門研究者の言葉は参考書を何冊も読むことよりずっと短時間でわかりやすい。いろいろな質問にも答えてくれる。同時にまだ解明されていない事柄も紹介され奥の深さを感じた。最後に水生生物班から今までに採取した生物の紹介があり野崎講師から解説を頂いた。

(生物はインストラクター会ホームページに掲載)
 今回の研修の成果は、今後すぐに活かせる知識が身についたこと、この道の奥深さを知らされたことでした。(記 6期 須長)

青春の旅 「森林ボランティア」

日 8月23日(日)10時~15時
場 県立21世紀の森(どんぐりコース)
参 小・中学生 32名・教師ほか 15名
イ L渡辺、高橋、相馬、山崎、中元、

どんぐりコースの人工林(ヒノキ)で、まったく手入れがされずに放置され真竹やアオキが林内一帯にはびこって、昼間でも真っ暗であった。各班に別れ、除伐作業開始。

日がさして明るくなった林内の様子に皆、感動していました。午後は各自除伐した真竹を使って、箆や花器、竹笛、等を工作で有効活用し、充実した一日を過ごした。

(記 7期 山崎)

水源林保全体験イベント (下草刈り)

日 9月5日(土)
場 箱根仙石原・イタリー水源林
主催 神奈川県水道記念館
参 大人18名・子供11名(計 29名)
スタッフ (水道記念館・アクティオ(株)8名
イ L高橋、落合、加藤、金森、

本日のイベントは神奈川県水道記念館の体験イベントで、午前中に下草刈りの体験を行い、以後、箱根ビジターセンター、生命の星・地球博物館の見学ツアーである。当日は晴天で秋の気配もある清々しい天気であった。箱根ビジターセンターで合流し、イタリー水源林までバスで移動し、到着後15分程度

の森林ミニ講座、安全講話、体操を行なう。
本日の参加者は当初40名(内、子供14名)であったが、当日のキャンセルもあり、参加者は29名(子供11名)であった。

作業は1時間程度の予定であるが昨年は蜂の被害もあったとのことで、参加者にも注意喚起し作業中も注意を払いながら作業を進めた。幸いに蜂の発見もあったが早期に確認できたため、作業場所の変更も出来、被害は無かった。

作業は大人も子供も汗をかきながら頑張ったため、かなりの面積を整備できた。

バス到着場への帰路も、わいわいと楽しげに帰っていく姿が印象に残りました。(記 9期 高橋)

森林講話と間伐

日 8月26日(水)
場 やどりき水源林<パートナー林・NO2>
参 三菱重工業(株)汎用機・特車事業本部
県 森林課 小司・金子
イ L伊藤、落合、島岡、高橋、武者、山崎、

CSR活動の一環として、企業の森林づくり“地球との絆”をテーマに、昨年度から森林づくりパートナーになりました。

今年度入社の新入生76名が新人研修として、ヒノキ、スギ林の間伐に取り組む。同社スタッフより活動の位置付け説明の後、県担当者から水源の森づくりの目標、方針の話、森林インストラクターからは簡単な森林講話を聞く。

ヘルメット装着の後、間伐作業における注意事項を聞き現場に向かう。やや狭い場所で、急斜面、周囲の状況に注意しながら、初めての間伐体験。決まった手順に沿って進めるがなかなか上手く行かない。混み合った森での作業。伐れたところで掛かり木。全員がロープで引っ張り苦労して倒す。約90分の作業であったが、皆さん交代で少しずつでしたが、良い体験をされたと思う。

(記 7期 伊藤)



「川崎市里山ボランティア育成講座第三回」

日 9月12日(土)
場 井田山緑地(川崎市中原区)
参 一般市民 25名
スタッフ 川崎市公園緑地協会ほか 9名
イ L松崎、吉山、宮本、渡部、井口、清水、

川崎市公園緑地協会が実施する。「里山ボランティア育成講座」シリーズ平成21年度の第三回目今回は中原区にある井田山緑地(中原区市民健康の森)内で行われた。あいにくの雨で作業「下草刈り、林床の手入れ」は中止し、プログラムを変更、午前中は隣接している井田市民病院会議室で座講を行った。はじめに現地の活動団体「中原市民健康の森を育てる会」の代表が活動内容を紹介、続いて神奈川県植物調査に携わった馬場しのぶさんが「アオキ、シュロ、ヤツデ、アズマネザサ」について現物を見せながら説明。最後に松崎が前回に引き続き「道具の使い方、手入れの仕方」を講義した。昼食後、現場に出て、はじめにノコギリの手入れの実習を実施。その後馬場さんの説明で自然観察を行い二時過ぎ終了。スタッフのみで次回の打ち合わせを行い三時前に解散した。次回は11月28日(土)に早野聖地公園で「大径木の伐採他」を行う予定。(記 5期 松崎)

森づくりボランティア活動

日 9月11日(金)9時~13時
場 座間市芹沢公園(芝生広場横 樹林地)
参 座間市募集の23名
市 公園緑政課課長以下 4名
イ L久保、中元、

今日の活動場所は、公園の北西部水せせらぎコーナー上段のクヌギ、コナラ林であり、作業はアズマネザサの刈払いとアオキ、シュロなどの徐伐だった。参加者は23名で、その構成はこの公園で活動しているグループの人たちが半数、初参加の人が5名、残りは何回か参加したことのある人たちだった。

9時から挨拶、オリエンテーションそして活動内容の説明と続き、9時30分から11時まで作業で、途中一度休憩を入れた。参加者を現場中段にある小道で上下2班に分け、上の班は早めに終了したため、下の班の作業に加わり、11時にはほぼ予定地の作業は終了した。引き続き道具の手入れ、その後、公園の中央部の林地に入り昼食前のひと時自然観察会を行った。昼食時に、ミニ講話ということで、私は「ドングリについて」中元さんは「竹について」それぞれ20分くらい話をした。最後に、課長から本講習会の終了証書が参加者に授与され、13時に今日の行事がほぼ終了した。

(記 8期 久保)

やどりき水源林
ミニガイド

9月のトピックス

実りの秋を迎え、樹木や草花の実が沢山付いています。秋のキク科の花が咲き始めています。トンボやチョウも見られます。



タテヤマギク

10月の見どころ

ジュウガツザクラが咲き始めます。木の実が熟れて落ちる時期、動物の活動も活発になります。水源林の集い(17日)、成長の森見学会(25日、11月3日)の催しがあります。

「森の案内人」情報

実施時間：毎週土曜・日曜・午後1時より1~2時間程度(冬季休止)

集合：水源林入口ゲート前

内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

問合せ：(財)かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255
fax:045-412-2300

●ホームページ： <http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内



箱根ビジターセンターで外来種展示

9月20日~11月14日

ビジターセンターから大涌谷までの主な外来生物を展示しています。次回のテーマは「種子散布」です。



森のなかま原稿募集

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

< 配信希望・手書き原稿送り先 >
森 義徳

〒232-0053
横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202
Tel/090-5433-7784Fax/ < 株リコー・森宛 045-590-1910 >

Mail: myforest@yha.att.ne.jp

< メール原稿送り先 >

【本誌】村井正孝

〒226-0002
横浜市緑区東本郷6-22-1-420
Tel/Fax: 045-476-4112
Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038
横浜市青葉区奈良2丁目10-5
Tel/Fax: 045-961-6695
Mail: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001
東京都町田市つくし野2-13-7
Tel/Fax: 042-796-6011
Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp
原稿の締切は毎月20日です。

＝ 編集後記 ＝

10期によるグッズマイスターとしての竹細工リング(ちんちくりん“珍竹輪”と命名)は順調です。編み方研修が終わり材料(秋のマダケ)を待つのみとなりました。各種イベントなどで販売予定です。よろしくお願いいたします。(金森)

巨大ガンダムを見に行った。地球再生の戦士とあった。他方、レンタル羊の商売5頭で500平米、3日でクリア。もはや人間共には任せられぬ蟻の歩みでも良い。我々は自然と森林環境を守りましょう。(鈴木松)

山北高校の文化祭で紙すき体験を行った。高校生は中間の出し物の方が良いらしく、参加したのはほとんどが小学生でした。(井出)

夏が終わり、食べ物が美味しい季節になりました。栄養と元気を付けて、インフルエンザをふっ飛ばしましょう!(森)

地元の公園の下草刈りボランティアに参加しました。アズマネザサはいつになったら退散してくれるのでしょうか。(鈴木朗)

10月号は広報部として特集「外来生物」を取り上げてみました。私自身9/9(水)県自然公園指導員として今年最後のオオハンゴンソウ駆除隊に参加(元箱根)。特定外来生物は海外が起源で日本の生態系や人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼしたり、及ぼす可能性があるものの中から環境省が指定。とは言え、植物は観賞用に、生き物は食材やペット、野菜・果物の受粉のため輸入され、異国の地で野生化し生き延びる為の戦略が今あだとなっている。日本の地を守るためには駆除もいたしかたないのだが、本来外来生物(特定も含み)には罪はないのである。

『外来生物』特集の発行にあたり、「特別寄稿」野付半島ネイチャーガイド大野木智子さんと環境省アクティブレンジャー 大川依里奈さんのご協力に感謝。(村井)

年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。(頒価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

広報部：井出恒夫(HP)鈴木松弘

金森 巖 森本正信

森 義徳 鈴木 朗

第61回全国植樹祭の開催日決定!

平成22年に神奈川県で開催する「第61回全国植樹祭」について、共催者である「社団法人国土緑化推進機構」と協議が整い平成22年5月23日

【日】に実施することが決定いたしましたのでお知らせします。

問い合わせ先：神奈川県環境農政部森林課全国植樹祭推進室・室長・下元様 045-210-4370
室長代理・稲垣様 045-210-4371



大会シンボルのかなりんちゃん

平成21年8月27日
記者発表資料より